

追悼

故 田賀秀一 会員（20期）

2013年7月3日逝去・75歳

1985年～1987年 司法研修所刑事弁護教官

1993年度 東京弁護士会副会長

2003年度 日本弁護士連合会常務理事



理想の弁護士を目指して

— 田賀秀一さん追悼 —

会員 千葉 睿一（19期）

「私が日大闘争の弁護にたずさわったのは、素朴な正義感、いいかえれば弁護士という職務から生ずる使命感からである。商法のゼミを出た私にとって刑法や刑事訴訟法は最大の苦手であった。だからもし私が思慮深い人間だったら多分お断りする場面だろう。だが私は生来向こう見ずな人間で、このことが自分の能力の範囲内にあるかどうかを考えるより先に、やるかやらぬかを決めてしまうやり方で生きてきた。この弁護はやらなければならない。私は決意した。」（田賀秀一著「1608名の逮捕者 日大闘争弁護士の証言」大光社）

田賀秀一さんは、京都大学法学部を卒業し、銀行に勤務しましたが、自由に信念のまま生きる弁護士を志して退職し、1968年東京弁護士会に入会されました。

田賀さんが、冒頭の日本有数の学園闘争に取り組んだのは、弁護士登録わずか3ヶ月目の1968年6月でした。勤務弁護士であった田賀さんは、その後1年6ヶ月の間に逮捕された1608名にもなる多数の学生のため、弁護団の中心となって、接見し、検事と釈放交渉し、勾留決定には準抗告をして弁護にあたりました。

その決断の早さと勇氣はその後の田賀さんの弁護士人生で貫かれたと思います。

田賀さんは、この事件によって自信を深め、

弁護士として正義のためにやるべき事件はやる、やる以上は徹底的にやるという信念は、さらに大きくなったと思います。

田賀さんは、弁護士は自分が正しいと考えることはたとえ一人になっても主張すべきという信念を持っていました。事件では当然ですが、ある委員会では、たった一人でも堂々と反対意見を述べていました。また、刑事弁護教官としては、この弁護体験を通じて、弁護士のあり方について熱く語っていたと聞いております。

こう言うと厳しく激しい弁護士のようにですが、田賀さんの理想は、弁護士は、仕事と別に、趣味を持って心豊かに余裕を持って生きるべきである、文武両道を目指すということでした。

読書が好きで多くのジャンルの本を読み、趣味も多彩で、囲碁、ゴルフから花札（八八）・ブリッジにまで及びました。スペインの別荘で夏休みを過ごすことを楽しみにしていました。また、おしゃれで、いつも趣味の良い背広とシャツを着ていました。そして、もっとも好んだのは、人とのおつきあいでした。法曹同志会を始め、研修所・大学など多くの会合の世話役となり、会合にはできるだけ出席し、人なつこい笑顔を絶やさず、多くの人と語り合い楽しそうでした。

最後まで理想の弁護士であることを目指し、実践していた田賀さん。ご冥福をお祈りします。